

保科 洋 ほしな ひろし 名誉指揮者・音楽総監督

昭和11年東京に生まれる。両国高校卒業後、昭和29年東京芸術大学作曲科に入学。昭和35年同大卒業とともに、毎日コンクール作曲部門管弦楽曲の部第一位入賞。昭和38年には、文部省芸術祭奨励賞受賞。東京音楽大学、愛知県立芸術大学を経て、昭和58年兵庫教育大学教授。平成13年3月定年退官し同大名誉教授となる。作曲・指揮の両面で活躍。

吹奏楽の作曲においては、日本を代表する一人で、海外でも評価は高い。全日本吹奏楽コンクール課題曲も過去3回委嘱されている。

作曲家としての見地から、また多くのアマチュア音楽団体の豊富な指導経験と、理論的根拠に基づく独自のユニークで説得力のある音楽解釈は、近年注目を集め高く評価されている。それらの集大成として音楽の友社より『生きた音楽表現へのアプローチ』=エネルギー思考に基づく演奏解釈法=(保科 洋著)が出版されている。類書のない理論的音楽解釈法として、アマチュア音楽愛好家はもちろん専門家の間でも評判になっている。

主な作品に、「カタストロフィ」「古祀」「吹奏楽のためのカプリス」「愁映」「風紋」「パストラール」「祝典舞曲」「響宴」「管弦楽のための変奏曲」、創作オペラ「はだしのゲン」などがある。

保科音楽事務所 Hoshina Music Office
www.hoshina-music.com/

秋山 隆 あきやま たかし 常任指揮者

昭和40年岡山市に生まれる。高松中学校吹奏楽部ににて奥原弘巳氏に指導を受け当時新設の岡山一宮高校に進学。昭和58年岡山県では初の学生指揮者による吹奏楽コンクールA部門金賞受賞として注目される。

昭和59年岡山大学医学部入学と同時に、岡山大学交響楽団にトランペット奏者として入部。現役時代には学生指揮者を務め、昭和62年の第2回全日本大学オーケストラコンクール第1位獲得に貢献する。卒部後サブコンダクターとして、常任指揮者保科洋氏のアシスタントを行い今日に至る。

平成6年当団を同級生後輩らと独自に組織し、責任者兼指揮者として活動。第4回定期演奏会後、医学部助手を退職しアメリカ留学(カリフォルニア大学バークレー校客員研究員)。その間当団も活動を停止。帰国後活動再開。

トランペットを鈴木勝久氏に師事。指揮法を奥原弘巳氏、保科洋氏、David Milnes氏に師事。

平成14年10月、岡山県倉敷市の川崎医科大学病理学教室に赴任し現在に至る。医学博士、病理専門医。

《保科アカデミー室内管弦楽団後援会のご案内》

当団後援会は年会費1口3000円で、小学生以上の方でしたらどなた様でもご加入頂けます。当団演奏活動のご案内と、1口あたり定期公演2名様分のご招待券をお送りいたします。(今回は、特別公演ですので4名様分お送りいたします。)

その他、岡山大学交響楽団のサマーコンサートと、定期演奏会の招待券も2名様分ずつ差し上げております。

後援会連絡先: 〒700-0825 岡山市北区田町 1-8-4 梅田 環
Tel & Fax: 086-231-3778
e-mail: Hoshina_Academy@hotmail.com

保科アカデミー室内管弦楽団

“アンサンブル=ハルモニア”

この団体は岡山大学交響楽団OBと一部現役部員の協力を得て1994年に結成されたユニークなオーケストラである。メンバーは公務員・会社員・教員・医師・専業主婦・大学院生および大学生と様々であるが、共通しているのは全員岡山大学交響楽団の関係者であり、『保科節』(ほしなぶし=保科理論)に基づく音楽解釈と演奏)に深く共鳴している点である。岡大オケとは、また違うコンセプト(編成・曲目・練習時間など)で、その実践を目指すのが目的である。

岡山大学交響楽団は55年を越える歴史と数々の伝統を有する大学オケである。年2回の岡山シンフォニーホールでの定期的な演奏会のほか、1983年以来5年毎6回の大阪・ザ・シンフォニーホールでの自主公演や、1987年の第2回全日本大学オーケストラコンクールでの第1位受賞を含む、3度の東京での演奏により、全国的にも名を知られるようになっていく。

その岡大オケを40年以上もの永きに渡り、手塩にかけて育て上げたのが、常任指揮者保科洋氏である。いうまでもなく『保科アカデミー室内管弦楽団』という名称は、氏の教え子たちの集まりという意味であり、「ハーモニーを重視しながら、緻密な演奏を目指す」という氏の演奏理念を強調するのが“アンサンブル=ハルモニア”というネーミングの由来である。

1999年から2年間主宰者秋山の米国留学により活動を停止していたが、帰国後直ちに活動を再開し、2001年4月には活動再開記念演奏会を行った。同年9月には音楽総監督保科洋氏を迎えて、第5回記念定期演奏会を兵庫県と倉敷において行った。2002年4月には、岡山市郊外に待望の専用練習場『響塾洋楽堂』も完成した。2004年には、創立10周年を記念して初の東京公演(第一生命ホール)を行い、好評を博した。2007年2月には第10回定期を記念して2回目の東京公演(第一生命ホール)を行ったが満席のお客様を迎えて大成功となった。保科先生の新曲(ホルン独奏曲)の初演も大好評で、管楽器専門誌『パイパーズ』にも特別記事が掲載された。今後も更に一層充実したユニークな音楽活動が期待される。

社会人が中心で、平均して月一度の練習でどこまでできるのかわからないが、共通体験・共通言語を持つ者同志で楽しみつつ、真剣に『保科節』の実践に取り組んでいる。

創立15周年記念《特別演奏会》について

『風紋』は、もともと全日本吹奏楽連盟の委嘱により、1987年度吹奏楽コンクール課題曲として作曲された吹奏楽曲です。今でも全国各地で盛んに演奏され続けている稀有な「課題曲」です。今回保科先生自らの編曲による管弦楽版の初演を行います。

『管弦楽のための変奏曲』は、1998年岡山大学交響楽団第45回定期演奏会(大阪&岡山)にて秋山隆指揮にて初演されました。(岡大オケは5年毎に保科先生の管弦楽曲を初演しています。)

「すみだトリフォニーホール」は保科先生の母校、両国高校のすぐそばです。そこで、保科先生の管弦楽作品と、岡大オケ伝統の十八番である『悲愴』を特別編成の保科アカデミーで演奏します。

「保科洋+岡大オケ+秋山隆+保科アカデミー」の真価を問う演奏会にしたいと考えております。

編成的にも選曲的にも、室内オケの範疇を超えていますので、今回は定期演奏会として数えずに特別演奏会としています。

《東京公演 前売り券販売》

すみだトリフォニーホール [JR総武線「錦糸町駅」北口/地下鉄半蔵門線「錦糸町駅」出口3-徒歩約5分]
トリフォニーホールチケットセンター Tel: 03-5608-1212 (営業時間/10:00-19:00)